

2 (4) 実践事例 (C校第6学年)

(イ)「調べる学習活動」における授業の質的改善

検証授業の記録と考察 (10月実践)


**本時の目標**

国民は政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを考え、表現することができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】

**本時に取り入れる手立て**

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。

**本時の授業の様子**

学 習 活 動	授業の様子 (T…教師, C…児童) 質的改善を図った手立て (ゴチック)
1 学習問題や本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     学習問題「江戸時代末期から明治維新にかけて、どのように変わったのだろうか。」                 </div>
本時のめあて 「憲法」は、どのようなものができたのだろうか。	
2 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」の資料を見て、何の資料か、どのような様子かを予想させる。	
3 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」に関わる資料が何を表しているか、読み取れることはどのようなことかを調べる。	C⑫調べた内容について、問い返して、事実相互を関連付けて考えさせる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">                         (ワークシートの児童の記述を指しながら)ここまでは「調べたこと」で、ここからは「考えたこと」だね。 (D②調べた事実と考えを明確に分けるようにする。)                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         T: 何という資料ですか                          C: 「自由民権派が作った憲法草案の記念碑」の写真です。                          T: この資料は、何を表す資料ですか。                          C: 憲法草案についてです。                     </div>
	D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         T: (板書の左側を指して) こちらは、どのような憲法の案だったのでしょうか。                          C: 国民が作ったものです。                          T: (板書の右側を指して) こちらは、どのような内容のものでしたか。                          C: 天皇が中心の内容です。                          T: 天皇の権限が強い、ということができます。                     </div>

4 「大日本帝国憲法」と「五日市憲法」とを比較して、国民の政治参加について考える。

T: では、新しく決まった憲法は、国民の意見が反映されているでしょうか。憲法が決まったので、国民が望んでいた「国会」を開くことができます。これでよかったんですね。

C: どうだろう・・・(つぶやき「よかった」「いや…」)

T: 自分の考えを書いてみましょう。まず、「反映された」「されてない」を決めましょう。そして「なぜなら」に続けてそう考えたわけを書いてみましょう。

5 本時のまとめをする。



本時の板書

**本時の成果と課題 (○成果, ●課題)**

- 児童は「調べたこと」と「考えたこと」を分けて自分の考えを記述することができていた。授業前半は資料を基に調べる学習を中心にし、後半に調べたことを活用して考える学習を行ったため、「調べたこと」と「考えたこと」とを分けて記述することができたと考えられる。また、調べ学習の途中で教師が価値付けを行いながら机間指導を行ったことも効果的であったと考える。
- 憲法草案と大日本帝国憲法の比較を通して、「どのような内容か」意味を問う発問を行ってはいいるが、最終的に「天皇の権限が強い」ということを教師の言葉で説明しているのので、児童が自らの言葉で説明することができるように、段階的に意味を問う発問を行う必要がある。
- 教師が「国民の願いは叶ったね？国会を開けたから…」と児童の思考を揺さぶる目的の発問をしたが、最終的な児童の意見文の中に「国民の願いは叶った」と記述しているものがあつた。本時に調べたことではないことで表現をさせてしまった。自分の考えを記述させる前に、児童に考えを更に交流させ、事実を基に十分に吟味を行わせてから記述させた方がよかった。



**次単元に取り入れる手立て**

- D①事実を調べた後に、意味を問う発問を段階的に行う。
- D②調べた事実と考えを明確に分けさせる。
- C⑫調べた内容について、問い返して、事実を相互に関連付けて考えさせる。